

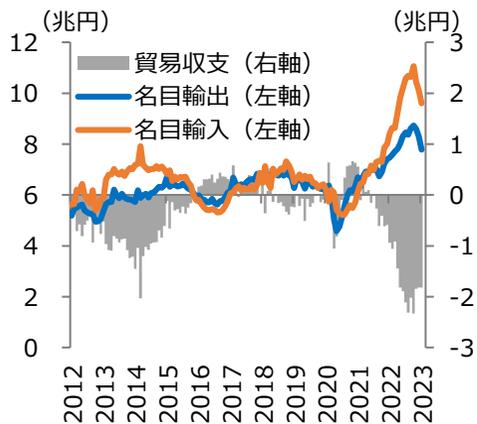
日本

貿易統計 (2023年1月)

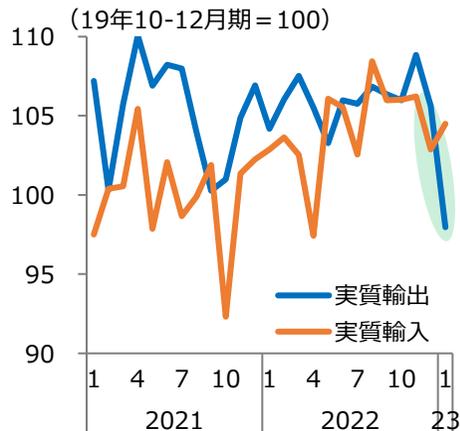
米欧向け輸出に減速感、23年前半は停滞局面へ

政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

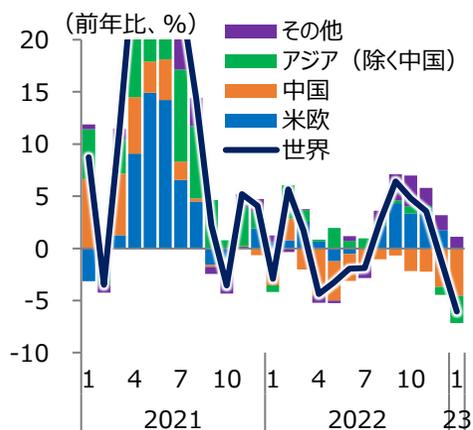
1 名目輸出入・貿易収支

注：季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」

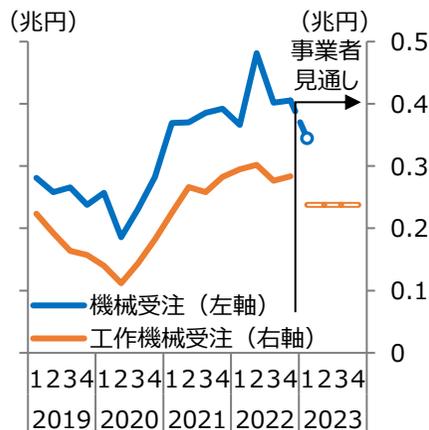
2 実質輸出入

注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より
三菱総合研究所作成

3 実質輸出 (地域別)

注：当社による実質値。欧州向けはEU加盟27カ国が対象。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より
三菱総合研究所作成

4 海外向け機械関連受注

注：機械受注見通しは単純集計ベース。工作機械受注は
末季調値、見通しは通年平均。
出所：内閣府「機械受注統計」、日本工作機械工業会
「工作機械統計」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 1月の貿易収支（季調値）は、▲1兆8,213億円と18カ月連続の赤字となった（図表1）。名目輸出（前月比▲6.3%）、名目輸入（同▲5.1%）とも減少し、赤字幅は前月からほぼ横ばいとなった。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質ベース（当社試算、季調値）では、輸入（前月比+1.6%）が増加した一方、輸出（同▲7.2%）が大きく減少した（図表2）。

基調判断と今後の流れ

- 貿易赤字は、円安・資源高の一服を受け、22年半ば以降徐々に縮小している。もともと、海外経済減速に伴う輸出の増勢鈍化から縮小ペースは緩やかにとどまっている。
- 実質輸出は、一時的要因により下振れている側面はあるものの、弱含んでいる（図表3）。1月の落ち込みが大きい中国向けは、春節休暇時期のズレ（22年：2月上旬、23年：1月下旬）により実態以上に下振れているとみられるが、ゼロコロナ政策解除に伴う感染拡大による制約が残った可能性もある。22年後半まで底堅く推移していた米欧向けも減速感を強めており、金融引き締めによる米欧経済下押しの影響が、日本の輸出にも波及しつつある。
- 米欧経済減速を受け、23年前半は輸出の低迷が続くとみられる。特に設備投資に関連する機械（資本財）は、金融引き締めによる下押しが強く、需要に弱さがみられる。1-3月期の海外向け機械受注は前期比▲15.0%（単純集計ベース）、23年通年の工作機械受注（外需）は前年比▲17.8%と、いずれも大幅減少が見込まれている（図表4）。
- ただし、23年後半以降、輸出は徐々に復調するとみる。背景として、①中国経済の持ち直し（感染一服後の経済活動正常化）、②半導体サイクルの好転（在庫調整は23年半ばまでに一巡の見通し）、③米国経済の底打ち（23年前半でFRBの利上げは打ち止め見込み）が挙げられる。